

茅野市玉川の会社員渡辺猛さん(35)がオーストラリアから持ち帰った寄せ書きの日章旗が、1945(昭和20)年3月にニューギニア戦線で戦病死した新潟県両津市の平田乙吉さん=当時(31)=の遺品と25日までに分かった。戦後60年を経て近く遺族の元に帰る。

茅野の男性 豪で託され持ち主捜し

日章旗 遺族の元へ



渡辺さんは九九年八月か、南佐久郡南相木村の南相木ら二〇〇二年十二月まで、小学校が交流しているオース

新潟出身 元 日本兵と判明

渡した。

渡辺さんによると、太平洋戦争当時、軍人だったトレーバーさんのおじが日本兵に託されたというが、詳しい経過は分からない。旗には「祈 武運長久 平田乙吉君」と大きく書かれ、親せきなどからの寄せ書きがびっしりと書き込んである。

帰国後、県戦没者遺族会からオーストラリアから持ち帰った日章旗を広げる渡辺さん

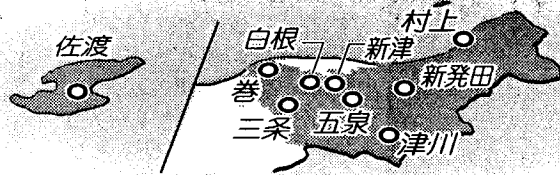
ストリアのアデレード市近郊の小学校で、現地の子どもたちに日本語を教えた。帰国時、ホームステイ先で校長のトレバー・ベルチェンバーさんが「持ち帰ってほしい」と日章旗を手

副会長の桜井真さん(65)に「佐久穂町畑」に依頼して持ち主捜しを始めた。桜井さんが靖国神社祭儀課に問い合わせていたところ、こ

両津市には、平田さんの妻トシ子さん(87)と長女の恵子さん(62)が健在。恵子さんは「わたしが生まれて二十五日に出征したと聞いています。六十年後に遺品が戻ってくるとは、父の妻と子どもへの強い愛があったのだろうと思う。感無量です」と話している。

遺族が分かって、渡辺さんも「戦争は本の中でしか知らない出来事。それにかかわった物が自分の手元に来るとは不思議な気持ちです」と感慨深げだ。

越・佐渡



支局網

渡の
佐故・平田さん

遺品の日章旗里帰り

時を超え妻子の元へ

60年ぶり

長野の豪で発見 遺族捜し出す

太平洋戦争中、ニューギニア戦線で戦病死した佐渡市の故・平田乙吉さん(当時三二)の日章旗が六十年ぶりに遺族の元へ帰った。日章旗は、三年前、長野県の会社員、渡辺猛さん(三三)がオーストリアから持ち帰ったもの。渡辺さんはこのほど同市を訪れ、遺族に手渡した。平田さんの長女、恵子さん(六三)は「奇跡としか言いようがありません」と話し、父の遺品を手に涙ぐんだ。



故平田乙吉さんの日章旗を広げる渡辺猛さん(左)と、平田さんの長女の恵子さん(左から二番目)、妻のトシ子さん(恵子さんの手前)

という。

漁師をしていた平田さんは、一九四三年に召集された。四五年三月、パプアニューギニアのマカツプ島で戦病死したとされているが、病気が負傷か、詳しい経緯はわかっていない。

渡辺さんは二〇〇二年までの三年間、オーストラリアのアデレード市近郊で、小学生に日本語を教え、勤務先の校長宅にホームステイしていた。校長宅には旧日本軍の軍用品や遺品がいくつもあった。軍人だった校長のおじが持っていたものだ

と、その中に日章旗があった。遺族は縦七十四センチ、横一メートルの日章旗を渡辺さんから受け取る

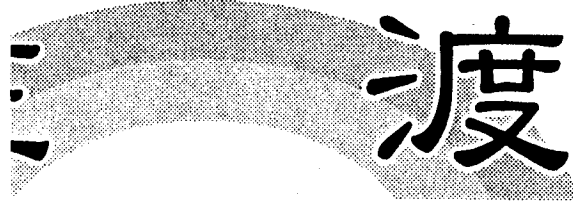
兵士の無事を祈る思いが詰まった日章旗を目にして「なんとか持ち主を捜し出さなければ」と思った渡辺さん。帰国後、「祈 武運長久 贈 平田乙吉君」の墨書や寄せ書きの名前を手がかりに、長野県の遺族会関係者や靖国神社を通して捜した結果、当時陸軍船舶工兵隊第五連隊の兵長だった平田さんのものと判明した。

渡辺さんからの連絡を受け、佐渡市のホテルに妻トシ子さん(八七)、恵子さんを呼び寄せ、二人が集った。遺族は縦七十四センチ、横一メートルの日章旗を渡辺さんから受け取る

と、いいねいに卓上に広げた。左にはトシイさんと恵子さんの名前があったが、他の寄せ書きと比べかなり薄くなっていた。「遠く離れた戦地で家族を思い、なでていたのでは」とみなで推測し、故人の無念さを感じた。

平田さんは、恵子さんが生まれて二十五日目に出征。父の遺品は一つもなかった。「家族を思う父の気持ちと、寄せ書きしてくださった人の思いが強い力となって、こうして戻ってきたのでしょう。本当にありがたいです」と渡辺さんに感謝の言葉を述べた。

渡辺さんは「六十年たっても人の気持ちが一本の線で固く結ばれていることを強く感じた」と語った。



佐渡支局

〒952-0006

佐渡市加茂歌代143-9

電話(27)2495

(27)4811

ファクス(27)2090

紙面へのご質問、ご意見

025(378)

購読のお申し込みは

0120(084

広告のご用命は

025(378)

渡

▼真野公園桜まつり2005「フォトコンテスト応募作品展」(7日まで、真野新町・ふれあいギャラリー1社)

▼杉山重信「初めての水彩画展と藤づるの花台展」(13日まで、第四銀行相川支店)

▼菊地靖晴「時事川柳展」(13日まで、はもち温泉クアテルメ佐渡)

▼吉井初子「写真展」(15日まで、浦川郵便局)

日まで、北越銀行両津支店)

▼よさこいおけさの軌跡展(15日まで、河原田本町会館)

▼加賀義治「写真展」(28日まで、相川下戸郵便局)

▼第26回交通安全ポスターコンクール優秀作品展(31日まで、第四銀行両津支店)

▼荒井忠夫「版画展」(31日まで、佐渡版画村)

い・ばあちの作品展」(8月1日まで、第四銀行佐和田支店)

▼身近な花を描く会「習作展」(8月4日まで、第四銀行南佐渡支店)

▼フォトワン・クラブ写真展(10日-8月31日、金井新保・桑原義泰画廊)

▼無名異の島・佐渡の焼き物展」(10日-9月25日、佐渡博物館)

▼伊東深水・小島功

館)

イベント

▼佐渡文化遺産講演会(10日午後2時-4時、千種・金井コミュニティセンター)旧両津市出身で、元文化庁文化財保護部長の中村賢三郎さんが「世界遺産と緩衝地帯 佐渡の金山と文化遺産について考える」と題して講演。無料。

作品と入選作品のうち、佐渡市の人たちの出品作品を中心に450点を展示する。450円。大学生以下無料。ジュニア展は真野ふるさと会館で開く。約700点を展示。入場無料。

▼新穂マザーカウンセリング勉強会(12日午後6時30分-9時、新穂地区公民館)参加費500円(初回無料)。問い合わせはマザーカウンセリ

ニューギニア戦線から無言の帰国

平田之吉さんの日章旗展示

両津郵便局 出征前の家族写真も

太平洋戦争中、ニューギニア戦線で戦病死したとされる湊出身の平田乙吉さん(当時三三)が戦地へ持参し、このほど六十年ぶりに遺族の元へ戻

ってきた日章旗が二十五日まで、夷の両津郵便局ロビーで展示されている。

日章旗は絹製で縦七十センチ、横一尺。平田さんの

武運長久を祈り、家族や親せきの寄せ書きが細かく記してある。

日章旗のほかに、出征前、産まれて間もない長女の恵子さん(六三と

妻のトシイさん(ハセと一緒)に写した写真など、平田さんの生前の写真など十数点も展示。郵便局を訪れた市民は日章旗に顔を寄せ、書き込まれた文字をじっくり見つめていた。

展示初日の五日、同局のロビーで、平田さんの姉、神蔵ハルさん(九八)は「物静かな弟でした。日章旗が戻ってきた

ときは涙が止まりませんでした」と感慨深げに話していた。

日章旗は、オーストラリアで日本語教師をしていた長野県の会社員、渡辺猛さん(三五)が日本に持ち帰り、平田さんの遺族に渡した。

展示時間は午前九時から午後七時まで。最終日は午後四時まで。

週末ガイド